



弁護士
森 徹

Blame It On My Aged

昨秋からコロナ禍は急速に下火となりました。このまま終息に向かい、従来の生活様式に戻ることを期待しております。

さて、私事ですが、昨年は後厄でした。世界全体が厄に苛まれた年でしたが、厄となってしまいました。

それは、とある猛暑日の夕刻。少し遠くの公園まで自転車を走らせる時のこと。途中、近くのスーパーに立ち寄るべく自転車を降りかけたところ、突然、高齢男性が脇目も振らず前へ！慌ててハンドルを切るも足を滑らせ転倒。背中から受け身をしたつもりが、立ち上がる瞬間、腰に激痛！ギックリ腰かと家に戻るも冷や汗が。翌日、病院へ。腰椎圧迫骨折の診断。MRIやら高価なコルセットのオーダーメイドやら。その後、毎朝起床時に激痛と奮闘。日中は猛暑の中

～後厄？～

ルセット装着で外出。2ヶ月の予定が3ヶ月でコルセットから解放。が、その後も続く腰痛。医者から出る言葉は「年ですからね～」。これまで腰痛に悩まされることはほぼなかったのに…と悔やむ日々。事故に遭われた方の心情を真に理解できるようになったのは天啓？

思えば「厄」は先人の経験と知恵の伝承の集積。今後、AIにより、職業別厄年や、「厄月」など精緻を極める日も？でも、先人の伝承は真実を言い当てるものにあらず。「用心せよ」との警鐘なり。

「厄」が過ぎても、コロナ禍が終息したとしても、用心に越したことはありません。

皆様引き続きご自愛のほどを。本年も宜しくお願致します。



弁護士
西岡 弘之

昨年始めたこと

一昨年引き続き、昨年よりもりがちな一年となりました。仕事でもリモートが増え、外出が減りましたし、仕事以外の時間では、一日中家に居た日も少なくなかったように思います。ある程度慣れてはきましたが、夏あたりからさすがに耐えがたくなり、何か新しいことを始めたくまりました。というわけで、昨年後半は新しいことを二つ始めました。

まず一つ目は宅建試験です。ここ数年、不動産を扱う仕事が増えたということもあり、不動産関係の法律の整理のために勉強してはどうかと考えてはいたのですが、昨年8月、ようやく始めることにしました。仕事で馴染みのある民法や、接する機会のある税法、建築基準法、宅建業法、土地区画整理法等の他にも、宅地造成等規制法、農地法、緑地法等々、出題される法律の範囲は広く、大

変でした(これを書いている時点では、まだ可否不明です)。

10月中旬に宅建試験が終わり、10月下旬からは、リコーダーを本格的に始めることにしました。学校で縦笛として習っていたあの楽器です。今後、高齢になってもずっと続けられそうな楽器だと思って気軽に始めたのですが、初めてみると結構奥が深く、研究すべきことも多そうです。とりあえず、パロクヤルネッサンスのリコーダー一曲を美しく奏でたり、ジャズも演奏したいというのが目標です。現在は、全ての調で音階をスムーズに演奏できるように、スケールやアルペジオの練習をしている段階ですが、

いくつになっても、新しいことを始めるのは楽しいものです。



弁護士
後藤 啓

荒川

昨年、このコラムで多摩川の散歩のことを書きましたが、今回は荒川の散歩について書かせていただきます。

荒川は、埼玉、山梨、長野に境を接する甲武信ヶ岳に源を発し、昔は熊谷市のあたりで利根川に合流していたそうです。

それが理由という訳ではありませんが、昨年の夏から秋にかけて、熊谷から東京湾の河口にかけて荒川を歩きました。もちろん、一日で歩ききることはできないので、何日かに分けて断続的に歩きました。

上流の方(熊谷の辺り)は単調な景色が続くのですが、堤防の上を歩くと、途中で一面にコスモスが咲く公園や湘南新宿ライン沿いに並ぶビルスカイラインを眺めることができます。

鴻巣の辺りに来ると、河川敷に田んぼが広がる景色が広がります。土手を内側に降りて、田んぼの畦道を歩くと、

途中で道が行き止まりになったりして、大変な思いをすることもありました。

また、上尾の辺りではセスナ機が飛び飛行場があったり、アイスクリームを食べることのできる榎本牧場があったりします。

さらに下ると、入間川が合流し、思ったより入間川が大きいのに驚きました。

その後も、大宮や浦和のあたりでは、大きな公園があり、ラジコンの飛行機を飛ばしたり、運動をしたり、思い思いに楽しんでいる人の姿を見ることが出来ます。

他にも、ロケ地では有名な北千住の堤防や、河口の中川と合流する辺りの川幅の広さや橋の大きさなど、興味を惹かれる景色がいくつかありました。

少しまとまりのない話になってしまいましたが、今年も、どこを歩こうか考えるだけで楽しいです。



弁護士
北村 聡子

フラワーアレンジメント

コロナで家にいる時間が増えたため、せめて家の中を晴れやかにしたいという気持ちからよく近所の花屋さんで買って飾っていたのですが、なんだかそれでは飽き足らなくなり、ついにフラワーアレンジメントの教室に通い始めました。行ってみると、コロナ前には頻繁に出入りしていた近所のお寿司屋さんの奥様も生徒さんだったりして、ご近所同士、和気藟々とした雰囲気の中で楽しんでいます。

当初は「できました。」と言って先生に見せると、先生が「んー。このお花はこういう風に見せてあげた方が…」などとおっしゃりながら、ほんの少し手直すだけで見違えるほど素敵なお仕上がりになることに感嘆しながらレッスンを終えるのが常でした。ただ、最近は先生のお直しの箇

所も少しずつ減り、「できました。」の段階で、自分でもそんなに満足のいく出来映えになっていることも多くなってきました。

フラワーアレンジメントをしていると、普段あまり使っていない部分の脳が活性化している感じがします。また、時折レッスンの中でプリザーブドフラワー(保存花)も扱うのですが、「プリザーブドのバラの花びら一枚一枚の間に小さな綿をピンセットで摘めて花を大きく見せる」というなんともチマチマとした作業が意外にも性に合っており、「これ、何時間でもやっていられそう…」と思いつつ、小さな綿をまさに「無心の境地」で詰め続けていたりもします。

教室は、私にとっての癒やしの場所です



事務局

乳酸地獄の激坂に挑戦

11月、箱根5区の前哨戦、仮想5区ともいわれる「激坂最速王決定戦@ターンバイク箱根」に参加しました。有料道路を通行止めにし、小田原金所をスタート、箱根大観山口までの最大斜度10%、標高差981mの坂道だけの13.5kmのコースです。大学生や招待選手らは、ここは傾斜ないの？と勘違いするような速さで駆け上がっていきます。箱根駅伝に向け選手の登坂力の確認に参加する大学が年々増えてきたそうです。感染症予防対策が徹底された運営の下、「歩かず止まらず、そして楽しむ」の目標が達成でき女子の部18位でした。この日は快晴で秋色になった木々のすまみから海も望め、ゴールでは正面に雄大な富士山が出迎えてくれ感動しました。2021最速王は、学生たちを抑えて「3代目山の神」と呼ばれた神野大地さんが大会新記録で圧勝しました。



事務局

東京五輪ボランティア

昨年の夏、コロナ禍で賛否両論あるなか、一年遅れの東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。2013年に東京開催決定。しかし開催前日まで、色々な不祥事が露見し、また、東京は緊急事態宣言下にあったこともあり、ボランティアの活動に関してもギリギリまでごたごたしていました。私は、ボランティアとして、Field(大会)CastとCity(都市)Castの両方に採用されており、とても楽しみにしていましたが、残念ながらCity Castの活動は一度も参加できませんでした。それでも、Field Castでは人事に配属され、数日間活動できました。また、ボランティア特権として、空いた時間に見学ツアーがあり、会場で強つかの競技を観戦することもできました。盛り上がり欠け、世界各国の人々との交流がなかったのは残念でしたが、東京での五輪でボランティア活動ができたことは一生の記念です。